

2017年の横浜港ビッグニュースを発表します

港湾局では毎年、その年の横浜港に関連したニュースを、ビッグニュースとして発表しています。

このたび、2017年のビッグニュースをまとめましたので、お知らせします。

2017 年は、新規北米航路の横浜寄港サービス開始や、「LNG バンカリング国際シンポジウム in 横浜」が開催されるなど、横浜港の国際競争力強化に向けた取組が推進されました。

また、「環境に配慮した船舶に対するインセンティブ制度」の開始や、11年にわたり整備を進めてきた南本牧ふ頭第5ブロックの完成など、安心安全でスマートな港としての取り組みを進めました。

さらに、横浜港の客船寄港数が過去最高を更新し、帆船日本丸が国の重要文化財に指定されるなど、これからの横浜港の賑わいがより一層進むことが期待されます。

基幹航路の誘致が実現



提供:物流ニッポン新聞社

横浜川崎国際港湾株式会社の営業活動の成果として、中国船社のコス SHIPPING が**新規北米航路（CPNW）**を開設し、3年ぶりに横浜寄港が復活しました。これにより、横浜港でのトランシップ貨物の増加に寄与しています。

横浜港の客船寄港数が過去最高を更新



2017年の横浜港の客船寄港数は178回で、過去最高である2013年の152回を上回る見込みです。

来年も初入港船8隻を含め、現時点で予約が200隻を上回っており、更なる客船寄港が見込まれます。

また6月には、さらなる横浜港の利用促進を目的に、船会社や旅行会社、船舶代理店、自治体等の皆様をお招きし、「横浜港客船セミナー」を初開催しました。セミナーでは、客船の運航会社やチャータークルーズを実施する旅行会社の方々による、講演やパネルディスカッションを行い、横浜港の発展及び日本におけるさらなるクルーズ振興の方策等についてお話いただきました。

ニュースの詳細な内容と写真は、別添資料をご覧ください。

お問合せ先

港湾局賑わい振興課長

有路 益義 Tel 045-671-2874

注目のクルーズレポート

横浜市港務局

物流機能の強化

5月 基幹航路の誘致が実現
横浜川崎国際物流株式会社
中国船舶のコスコンピンギングが新規
北米航路 (CPNW) を開設し、3年ぶり
に横浜港が復活しました。これに
より、横浜港でのトランジッブ貨物の
増加に寄与しています。

1~9月 横浜港のコンテナ取扱個数、全面的に好調
2017年1月~9月の横浜港におけるコンテナ取扱個数は21万
個(前年同月比106.6%)となり、外貨・内貨・輸出入の全てに
おいて増加しています。外貨コンテ
ナは自動車関連を筆頭に増加してお
り、トランジッブコンテナの取扱個
数も昨年6月から16か月連続増と好
調に推移しています。内貨コンテナ
は北海道・東北地方を中心とした内
航ネットワークの拡充もあり、増加
となっています。

4月3日 我が国初の「LNG/バンカリング国際シンポジウム」が
開催されました
国際的な船舶の排出ガス規制が強化され、重油からLNG(液化天然ガス)へ燃料の転換が進む
と見込まれています。そこで、LNG/バンカリングに取り組み気運を醸成するため、我が国初のシ
ンポジウムが横浜で開催されました。林市長が開会の挨拶を行い、横浜港が日本で初めてLNG
を受け入れた港であることなどのエピソードを紹介しました。

施設整備の着実な前進

船舶の大型化や海運動
向に的確に対応するため、
横浜港の機能強化に向け
て、先進的な施設整備を
意図に進めています。
南本牧ふ頭では、3月に
「南本牧はま道路」が開通
し、埠頭の連絡強化と
広域幹線道路ネットワークとの接続が実現しまし
た。MC4岸壁は、12月に
背後の荷さばり地部分の
埋立が完了し、引き続き
2019年度の供用を目指し
て整備を進めています。
本牧ふ頭では、30年度
の供用に向けてD1ターミナルの再整備に取り組んでいます。また、
新本牧ふ頭の事業化に向けて、環境影響評価手続きに着手しました。
3~5月に配膳手続き、10月より方目法手続きを行っています。

LNG/バンカリング国際シンポジウム in 横浜
ING Banking International Symposium in Yokohama

みなとの賑わい

臨海部の土地売却進む
臨海部では公営により土地の売却を進めています。新
たにみなとみらい21中央地区43街区では「学校法人神奈川
大学」が同地区初となる大学キャンパスの開設を、また、
横浜ベイウイマリナ地区では「三井不動産株式会社」が
現在の商業施設をリニューアル、拡大することが決定し、
各地区のさらなる魅力の向上が期待できます。

9月15日 帆船日本丸が国の重要文化財に
日横浜船渠株式会社第一船渠(ドック)に所蔵さ
れている帆船日本丸が、国の重要文化財に指定され
ました。評価ポイントとしては、長きにわたり船員乗組の任
務を担い、海運業の発展に貢献したこと、また、現在希少な戦
前建造の船であり、建造当時の構造、機装(きそう)を良く
伝えていることから、海運史、造船技術史等研究上、貴重で
あることです。な
お、海上で保存さ
れている帆船とし
ては、我が国初の
重要文化財指定と
なります。

**大さん橋岸壁を使用した
イベント「横浜港大さん橋マ
ルシェ」開催**
大さん橋指定管理主催で、岸壁を
活用した、全国でも例のない「横浜港
大さん橋マルシェ」が開催されました。
神奈川県産の食料品が、飲食の提供な
ど、地産地消促進、食文化の重要性を
アピールしました。2月18日、19日の
第1回を皮切りに回開演、合計約10
万人の来場者があり、大さん橋にこれ
までにない賑わいをもたせました。

国際交流の深まり

10月には、姉妹港ハンブルク港と姉妹港
締結25周年を迎え、姉妹港・貿易協力港合
同ワークショップを開催しました。
その他8月には、タイ湾行とワークショッ
プ「Yokohama Port Challenges for the 21st
Century」を開催したほか、横浜港埠頭株式
会社と進める技術協力も進めています。
9月には、横浜川崎国際物流株式会社
(YKIP)が台湾国際港務有限公司(TIPO)と港
湾運営等に関する相互協力に向けた覚書を
締結しました。

山下ふ頭の再開発

倉庫等の移転・解体進む
10月から民間倉庫や市有上屋の
解体工事などが始まることも、
暫定の食堂・売店もオープンしま
した。こうした、山下ふ頭再開発
がさらに進められています。

横浜港の各船寄港数が過去最高を更新

2017年の横浜港の各船寄港数は178回で、
過去最高である2013年の152回を上回る見
込みです。
来年も初入港船隻を含め、現埠頭で予約
が20隻を上回っており、さらなる各船寄港
が見込まれます。
また、6月には、さらなる横浜港の利用
促進を目的に、船会社や旅行会社、船舶代
理店、自治体等の皆様をお招きし、「横浜港
客船セミナー」を開催しました。セミナー
では、客船の運航会社やチャータークルー
ズを実施する旅行会社の方々に、横浜港
やハネルディスプレイカスションを行い、横浜港
の発展及び日本におけるさらなるクルーズ
振興の方策等についてお話しいただきました。

10月14日 2019年の供用を目指し新規客船ターミナルの着実な整備進む

みなとみらい21新港地区では、
岸壁整備を予定通り進めるとともに、ターミナ
ル整備について民間の資金やノウハウを積
極的に活用するため、公民連携事業による事
業提案方式で公募を実施した結果、「(仮称)
Yokohama Pier9」が事業予定者に決定しま
した。
大黒ふ頭では、国と連携しながら、自動車
専用船岸壁の拡張を進めており、12月に国直
轄事業によるP3・4岸壁の改良事業に着手しま
した。また、来春4月の超大型客船の受入に向
けて、11月にCQ施設整備に着手しました。

安全安心スマートな港

**「ヒアリ」駆除の
適切な封じ込めを実施**
7月に本牧ふ頭のコンテナ
ヤード付近で特定外来生物の
「ヒアリ」が発見されたため、国
や本市関係局と連携し、トラッ
プ設置やペスト剤の配布、横浜港ヒアリ等対策連絡会議を開
催するなど、ヒアリ駆除の徹底に取り組んでいます。
3月 緊急輸送路の液状化対策が完了
大規模地震時には液状
化により道路に埋没され、
たマンホールが浮上し車道の通
行に支障が生じます。
そのため変置物等を運搬す
る緊急輸送路に指定された横浜港道路12路線、延長13.5kmにわ
たる455箇所のマンホールを対象に2013年から対策に着手、
4年間で全ての対策が完了しました。

4月1日 「環境に配慮した船舶に対するインセンティブ制度」を開始しました

「環境に配慮した船舶に対する
インセンティブ制度」を開始しました
港のスマート化の取組の一環として、国際的な認証機関(ES・
Green Award)による環境基準を満たす船舶の入港料を15%減免
する制度を開始しました。横浜港だけがこれら2つの制度に同時
に加入しています。3月30日には、認証機関のひとつであるGreen
Award(財団)のフランセズ理事長が林市長を表敬訪問しました。

外国船社による相次ぐ横浜港寄港クルーズ実施

7月には、新たに「スーパースター・ヴァーゴ」による横浜港寄
クルーズが実施され、2019年春には「サン・プリンセス」による
初の世界一周「クワイーン・エリザベス」による初の複数回日本寄
着クルーズが横浜港寄港で実施することが決まりました。

横浜港が「国際クルーズ旅客受入機能高度化事業」に採択、「国際旅客船拠点形成港湾」に指定されました

港湾におけるクルーズ旅客の利便性や安全性を確保し円滑な
受入れを促進するため、国が事業費の一部を補助する「国際ク
ルーズ旅客受入機能高度化事業」に「新横浜地区」及び「大黒ふ
頭地区」の事業が採択されました。また、公民連携による国際
クルーズ拠点を形成する港湾として、「国際旅客船拠点形成港
湾」に横浜港が指定されました。

山下ふ頭での客船受入

客船の予約が
重なり、大さん
橋では受入がで
きない状況が生
じたことから、
山下ふ頭を合計
で6回活用し、客
船「お断り」ゼロ
を実現しました。
では、関係者が連携し、これまでの横浜港の経験・
ノウハウを最大限発揮しました。

9月30日 南本牧ふ頭第5ブ
ロック廃棄物最
終処分場が完成
市民生活から生じる廃棄物
を長期に、安定して受入れる
ための施設として、平成19年
度から11年間にわたって、整備
を進めてきた最終処分場が完
成しました。

ES・Green Awardの表彰状を授けら
れた市長と、認証機関の代表者
が握手を交わす様子。